

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200783
法人名	医療法人平成会
事業所名	ほっとやまうち
所在地	今治市常盤町8丁目4-31
自己評価作成日	平成27年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.jp/houkoku/38/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 12月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」の理念を実践している。施設は市街地あるために交通の便が良く、活気があり生活を感じる環境にある。 開設時からの勤務者が多く職員同士の関係も良好で、半数以上の職員が介護福祉士の資格を有しケアの質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13年目を迎える事業所は、開設当初から大切にしてきた地域交流の努力が実を結び、町内会行事への参加や多様なボランティアの来訪、中学、高校、短大生との交流が定着している。近くの高校生は敷地内にある菜園の管理を引き受け、利用者は収穫して食材にしたり、運営推進会議には地域住民の他、高校教員と短大教授が参加して充実した内容で会議が行われサービスの向上に活かされている。管理者は家族との関係を大切に考えており、年4回家族会を開催して交流の機会を設けたり、サービス担当者会議に出席してもらって話し合いを行う等して良好な関係を持つことで、協働して利用者のケアにあたる姿勢を貫いている。また、家族の要望に応じて看取りケアにも取り組み、昨年は3名の利用者の看取りを行っている。事業所は人材の育成に力を入れており、毎月10回程度の研修の機会がある。職員はキャリアアップを目指し、意欲的にサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

ほっとやまうち

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)

氏 名

近藤 礼子

評価完了日

平成27年11月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」の理念があり、職員は共有し意識してケアに当たるようにしている。	
			(外部評価) 事業所では、開設当初に職員で話し合って決めた「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」という理念を大切に継承している。言葉通りに利用者と職員が支え合いながら生活し、「ほっとできる家」を目指している。職員は理念をユニット入口やスタッフルームに掲示して共有し、ケアに行き詰った時は立ちもどって考えるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に加入し、自治会の総会や防災訓練等の行事に参加させてもらっている。 地方祭に於いては大人神輿・子供神輿の来設や亥の子来設等、地域の人々と良い関係を築いている。	
			(外部評価) 地域に貢献する事業所を目指して、地域交流に積極的に取り組んでいる。町内会や老人会の総会に参加して地域の人々と顔馴染みになったり、校区の防災訓練に参加して緊急時の協力関係を築いている。また、敷地内にある畑を高校園芸クラブの生徒が耕して作物を収穫したり、近くの短大生の実習を受け入れ、大学祭にも参加している。書道や生け花のボランティアが定期的に訪れて利用者と交流したり、オーケストラを近所の人々と共に楽しむ行事もある。「ほっとでHOTな夏祭り」には多くの人々の参加があり、盛大に開催されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 入居申込時に困っている状況を詳しく聞き、認知症対応のアドバイスを行っている。 今治明德短期大学の介護実習、今治南中学校生の福祉体験学習、今治南高校生のジョブウィークに協力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、会議では事業所の活動報告やその時に応じた議題を熱心に意見交換し合い、サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、家族や自治会長、高齢クラブ会長、民生委員、消防団、商店主、高校教師、短大教師、市職員、他事業所職員等多様な人々の参加を得て2か月に1回開催している。会議では、利用者状況報告やスライドを使った活動報告、ヒヤリハット事故報告を行うほか、取り組むべき課題について協議している。利用者の健康診断についての協議では、参加者の提案を受けて胸部レントゲン撮影を取り入れるようになった。会議録は事業所便りと一緒に、家族にも送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に毎回出席していただき情報交換している。ノロウイルス・インフルエンザ等の感染症の情報提供や事故発生時のアドバイスを受けている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員が参加して、事業所の状況を理解してもらっており、介護保険制度改訂の内容や感染症予防対策について情報を得るなど、相談できる関係を築いている。今治市社会福祉協議会が開催する研修会へ参加したり、今治市グループホーム交流会に参加して交流を深めている。また、今治市地域包括支援センターからは空室状況の問い合わせがある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 何が拘束に当たるかその都度職員間で話し合い、拘束しないケアに努めている。玄関は日中施錠せず、センサー方式のチャイムで出入の様子や見守りをしている。	
			(外部評価) 身体拘束しないケアについては職員全員の共通理解になっており、今までも行っていない。問題があれば身体拘束廃止委員会が中心になってミーティングで話し合い、職員にも徹底している。退院直後で転倒の危険がある利用者にはマットレスを敷いて低床にしたり、ひとりで外出する利用者にはチャイムや玄関先にいる事務職員の見守りで危険を防止している。言葉使いについても具体的に指導して、言葉による拘束を行わないよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) どういう行為が虐待に当たるか常に意識し、職員間で互いに注意し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し学んでいる。活用の事例はないが地域包括支援センターとの良好な関係は出来ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 文書で説明し同意を得る他、納得していただけるまで細かく丁寧に説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議に家族代表で出席をお願いし、活発な意見を聞かせてもらっている。 また、ケアプラン作成時や家族会の折に要望を聞く等、開かれた施設運営を心掛けている。 (外部評価) 管理者は家族と良好な人間関係を構築することが大切であるという認識を持っており、年4回家族会を開催して意見や要望を聞くと共に、家族間の交流を図っている。入居時に利用者が新しい環境に慣れるまでは毎日面会に来てもらうよう依頼するなど、家族の協力を得るようにしている。職員は家族に利用者の良いことを多く伝え、安心してもらえるように配慮している。また、家族の要望にはすぐに応えるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1度のリーダーミーティングや各階のミーティングを行い、職員の意見や提案を傾聴し反映させている。 (外部評価) 毎月行われるミーティングには、2か月に1回は必ず出席する取り決めをし活発な意見交換を行っている。会議では、利用者全員のカンファレンスやヒヤリハット報告を行って事故防止に取り組んでいる。職員は話しやすい雰囲気があると感じており、職員一人ひとりの持ち味を発揮できる環境である。法人では人材育成に力を入れており、月10回程度の研修を行っている。資格取得を目指す職員も多く、資格に応じた待遇を設定して応援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格に応じた昇給があり、介護福祉士国家試験に挑戦するスタッフが多い。職員の勤務時間や勤務日数が考慮されている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修案内は各ユニットに配布され、内外の研修の機会を提供している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 今治グループホーム交流会の発足で、相互訪問や事業所内の困難事例を持ち寄り問題解決することで、サービスの質の向上に繋がっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時センター方式を活用し、生活歴を知り、良く理解することで信頼関係を築いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用申し込み時に家族とよく話し合い、安心してホームで暮らせるようその都度不安を解決し、良い関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の様子や家族からの情報を的確に把握し、今必要とされているケアを見極め対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩とし共に過ごし、喜びも悲しみも分かち合える関係作りを心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 認知症ケアは家族の協力が必要であることを理解してもらっており、可能な限り来設をお願いしている。 家族会を3ヶ月毎に行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族には可能な範囲でこれまで大切にしてきた生活習慣の継続をお願いしている。(墓参り・美容院・外食等) 同施設内デイサービス利用者さんとの交流等。 (外部評価) サービス利用開始時に生活歴を家族に書いてもらい、馴染みの人や場所についての情報を得ている。家族や知人の面会も多く、職員は気持ち良く面会に来てもらえるよう配慮している。家族会には孫やひ孫の参加もあり、墓参りや外食に家族が付き添って外出することもある。また、行事を通して1階のデイサービス利用者との交流があり、近所の人々の参加もあって知人と出会う機会になっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 楽しく関わりが持てるよう雰囲気作りをしている。また仲良く互いに支え合えるよう、席の配置を考慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院や他施設に移っても様子を伺いにお見舞いに行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常会話の中で思いや意向を聞くようにしている。困難な利用者には家族と話し合い利用者本位のサービスが出来るよう検討している。	
			(外部評価) 職員は利用者の希望や意向を大切にしたいと考えており、利用者ごとの担当者を決めて日常生活の中で聴き取るよう努めている。入浴介助や夜勤の時など、時間を見つけてゆっくりと話を聴くようにしたり、居室を訪れて二人きりで話を聞く等して、意向の把握に努めている。また、希望を把握した場合は、職員と家族が協力してそれを実現するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族会や面会時にセンター方式を活用している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録にケアプランに沿って記入し、支援経過表には詳しく記録している。また申し送りも充実しており情報を共有できている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケア目標をカード化し、生活記録時にいつも目を通し、スタッフ全員で共有している。 月末にモニタリングを行っている。	
			(外部評価) 計画担当者が立案した初回介護計画に沿って、担当者が毎月モニタリングを行い、ミーティングで話し合っ て介護計画に反映させている。状態の変化がある時は その都度、ない場合は6か月に1回家族を交えてサー ビス担当者会議を開催し、話し合っ て介護計画を完成させている。初回以降の介護計画は、全職員が担当 ごとに作成しており、実行可能な具体的な目標を立てる ことを大切にしている。ケア目標を記載したカードを 作成して日々計画を意識しながらケアを行い、実施状 況ををチェックするようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活記録にその人の言われた言葉や気付きを記入している。スタッフ間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) デイサービスふれあいを利用していた人を入居していただいたり、緊急時のショートステイとしての利用の受け入れも行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 今治南高校園芸クリエイト科の生徒さんと共に園芸セラピーを行い、土に触れ季節の風に当たり心豊かに暮らせている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は母体の山内病院となっており、月1回職 員が同行し定期受診して健康管理をしている。また緊 急時もドクターが往診して対応している。	
			(外部評価) 協力医院をかかりつけ医とする利用者が多く、定期的 に職員が付き添って通院している。通院が困難な場合 は往診を依頼することもでき、24時間医療体制が 整っているため安心して利用することができる。 専門科外来受診は家族に付き添いを依頼しているが、 困難な場合は職員が付き添うようにしている。緊急を 要する場合は、法人の病院に入院して治療を受けるこ とができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調の異変は直ぐ看護師に相談し適切な受診をしてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 介護サマリーを提供し、情報を交換している。スタッ フは頻回にお見舞いに行き、状況等の情報を提供して もらっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族会・ケアプラン見直し時の担当者会議で、家族の 意向や施設の支援について説明している。 看取りについて冊子も渡している。また定期的に看取 りについて勉強会も行っている。	
			(外部評価) 看取り指針を作成し、本人や家族の要望に沿って看取 りを行う方針である。入居時に終末期について本人と 家族の意向を確認し、重度化した場合はその都度、家 族と医師、職員が話し合っ方針を検討している。今 までに10名の利用者の看取りを行った経験があり、 家族と協力して最期を看取っている。事業所の看護師 と協力病院の看護師が連携して医療対応を行い、職員 は年数回看取り研修を行って研鑽に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急に備えたマニュアルがある。 AEDを使った応急処置の講習を定期的に全員受講している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回防災避難訓練を実施しアドバイスをもらっている。 地域の避難場所としての受入れの情報を提供している。また地区の防災訓練にも参加している。 (外部評価) 年2回消防署立ち会いのもと避難訓練を行うほか、独自に1回訓練を行っている。夜間を想定し、防火扉まで避難できることを目標にしている。暗闇の中でランプを使用して作業点検を行ったり、手作り担架を使用した訓練も実施した。エレベーターは非常時担架が入る構造になっている。年1回は全職員参加での訓練を実施し、手順を体験するようにしている。地域に貢献したいという意向があり、地震発生時の避難受け入れを表明している。備蓄品は各階に保管しており、非常食の試食会も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 親しくなりすぎて失礼のないよう言葉使いに気をつけている。また、お手伝いをしてくれた時は、必ず「ありがとう」などの感謝の気持ちを伝えている。 (外部評価) 管理者は感謝の気持ちがあれば利用者の尊厳を守ることにつながると考えており、利用者に対して折に触れ「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えるよう指導している。食器の片付けを行う際も、職員から自然に「ありがとう」の言葉が出ていた。また、トイレ誘導を行う際はそっと声かけをするよう気をつけたり、脱衣場にカーテンを設置して羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者のペースに合わせ、笑顔でゆったりとした声掛けや見守りを心掛けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者さんの体調や気持ちに沿った無理のないケアを支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に馴染みの美容師が来設し、散髪してもらっている。 外出する時は、おしゃれし、お化粧の支援もしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の食材を取り入れた季節感のある献立にしている。 野菜の簡単な処理や下ごしらえを手伝ってもらっている。下膳や食器拭きなどの可能な限りお手伝いをしてもらっている。 (外部評価) ユニット毎に献立を考え、法人の管理栄養士に定期的に確認をしてもらっている。職員も一緒に食卓を囲み、食後は利用者と一緒に食器の片付けを行っている。食材は週2回利用者と一緒に買い物に行くが、畑で収穫した野菜を使うなど旬の食材にこだわりを持っている。正月や地方祭、クリスマスでは行事食を用意してみんなで楽しんでいる。また、誕生日は好みの料理を作って祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 山内病院の栄養士さんに献立表のチェックをしてもらい、アドバイスをもらっている。水分摂取量の少ない利用者さんには、汁物を多めにしたり味の付いた飲料水の提供等で水分確保をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアの支援をしている。 入れ歯の利用者さんは就寝中は外して消毒液に浸している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを把握し、トイレ誘導し気持ちの良い排泄が出来るよう支援している。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握してトイレ誘導し、日中はできるだけトイレで排泄ができるよう支援している。夜間も鈴を鳴らしてもらってポータブルトイレで排泄ができるよう支援している。以前紙パンツを使用していた利用者に褥瘡ができ、意識してトイレに誘導することで改善することができた経験があり、なるべく安心パンツで過ごせるよう支援している。また、毎朝手作りのヨーグルトを出して便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ラジオ体操や軽いストレッチを毎日行っている。オリゴ糖入りヨーグルトを毎朝提供したり、豆類等の繊維質豊富な食品を献立に取り入れている。外気浴や廊下を歩くことの声掛けをしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午後のスタッフの多い時間帯にゆっくり入浴を楽しんでもらっている。 体調に応じて、足浴をしている。	
			(外部評価) 週2～3回の入浴を基本とし、家庭用浴槽でなるべく湯に浸かってもらうようにしている。利用者の身体状況に合わせて福祉用具を活用し、安全に入浴ができるよう支援している。体調によって3日入浴できない時は、清拭や陰部洗浄を行って清潔を保てるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、日を変えて声かけをするなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 眠れない時にはホットミルクを提供し、ゆったり傾聴し安心して入眠できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1人ひとりの薬を把握している。薬の変更・追加薬・臨時薬が処方された場合は、連絡ノート・支援経過表に記載し申し送りを徹底し、全スタッフが理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人の生活歴を意識した役割をお願いし、頼りにされていることで張り合いや喜びを感じながら日々を過ごせるよう支援している。 月に2回カラオケをし、気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は敷地内で外気浴を楽しんでいる。また年4回ホテルや回転寿司などの外食やドライブの支援をしている。 菊花展・桜・梅・ツツジ等花見に行っている。	
			(外部評価) 季節感を味わえるよう、四季折々の行事に出かけている。初詣、大学祭、おんまぐ祭や梅、桜、藤などの季節の花見になるべく全員で出かけられるよう努めている。遠出ができない時は事業所の敷地内を散歩したり外気浴を行っている。また、年に数回国際ホテルでの外食は、利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 近所のコンビニへ買い物支援を行っている。お金を所持し支払ってもらい、充実感を味わってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) スタッフルームの電話は自由に使ってもらっている。面会の少ない家族には手紙を書いてもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用部分には床暖房・エアコン・大型テレビ・空気清浄加湿器等設備し、快適にしている。 季節の花や壁画をし、季節感・居心地の良い空間作りを行っている。	
			(外部評価) 共用スペースにはオープンキッチンと椅子席、ソファ席、畳コーナーがあり憩いの場となっており、利用者は思い思いの場所で寛ぐことができる。壁には職員と共同で作成したクリスマスリース等の飾りつけがされ、クリスマスムードに包まれている。また、行事写真を指差しながら、写真に写っている自分を捜している利用者の姿があった。駐車場の一角に畑があり、高校園芸クラブ生が毎週訪れて野菜の栽培をしており、利用者の楽しみになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下にソファを置き、自由に利用してもらっている。エレベーターホールは日当たりが良く日光浴も兼ねて良き交流の場になっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの物を持ち込み、安心出来る部屋作りをしている。	
			(外部評価) 居室にはベッドと整理だんすが備え付けられており、広々として車いすでも自由に移動ができる。窓も大きく、窓越しに街並みや田園風景を眺めることができる。入居時に家族へ馴染みの品物を持ってきてほしいと伝えており、家族写真や鏡、テレビ、椅子等を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。好みのぬいぐるみや手作り作品を飾り、個性的な部屋にしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下・トイレ・風呂に手すりを取り付けている。各居室のドアは引き戸になっており、出入がスムーズにでき安全である。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200783
法人名	医療法人平成会
事業所名	ほっとやまうち
所在地	今治市常盤町8丁目4-31
自己評価作成日	平成27年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.jp/houkoku/38/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 12月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」の理念を掲げ、利用者さんスタッフ共々笑顔で毎日が送れる様支援している。また地域の方々の協力を得て、様々な行事が実行されている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13年目を迎える事業所は、開設当初から大切にしてきた地域交流の努力が実を結び、町内会行事への参加や多様なボランティアの来訪、中学、高校、短大生との交流が定着している。近くの高校生は敷地内にある菜園の管理を引き受け、利用者は収穫して食材にしたり、運営推進会議には地域住民の他、高校教員と短大教授が参加して充実した内容で会議が行われサービスの向上に活かされている。管理者は家族との関係を大切に考えており、年4回家族会を開催して交流の機会を設けたり、サービス担当者会議に出席してもらって話し合いを行う等して良好な関係を持つことで、協働して利用者のケアにあたる姿勢を貫いている。また、家族の要望に応じて看取りケアにも取り組み、昨年は3名の利用者の看取りを行っている。事業所は人材の育成に力を入れており、毎月10回程度の研修の機会がある。職員はキャリアアップを目指し、意欲的にサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

ほっとやまうち

(ユニット名)

3F

記入者(管理者)

氏 名

稲田 玲子

評価完了日

平成27年11月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」の理念を目につく所に掲げ、スタッフ皆で共有し実践している。	
			(外部評価) 事業所では、開設当初に職員で話し合って決めた「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」という理念を大切に継承している。言葉通りに利用者と職員が支え合いながら生活し、「ほっとできる家」を目指している。職員は理念をユニット入口やスタッフルームに掲示して共有し、ケアに行き詰った時は立ちもどって考えるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事に参加している。 地方祭では子供・大人神輿、亥の子さんが来所。たのもさん作りでは老人会から指導に来てくださった。	
			(外部評価) 地域に貢献する事業所を目指して、地域交流に積極的に取り組んでいる。町内会や老人会の総会に参加して地域の人々と顔馴染みになったり、校区の防災訓練に参加して緊急時の協力関係を築いている。また、敷地内にある畑を高校園芸クラブの生徒が耕して作物を収穫したり、近くの短大生の実習を受け入れ、大学祭にも参加している。書道や生け花のボランティアが定期的に訪れて利用者と交流したり、オーケストラを近所の人々と共に楽しむ行事もある。「ほっとでHOTな夏祭り」には多くの人々の参加があり、盛大に開催されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 明德短大・ニチイ学館等の研修生やボランティアを受け入れ、今治南高生・今治西中学生・今治南中学生の体験学習を受け入れている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、自己評価や外部評価も公表している。また、出席者の皆さんと情報交換したり話し合ったりしながらサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、家族や自治会長、高齢クラブ会長、民生委員、消防団、商店主、高校教師、短大教師、市職員、他事業所職員等多様な人々の参加を得て2か月に1回開催している。会議では、利用者状況報告やスライドを使った活動報告、ヒヤリハット事故報告を行うほか、取り組むべき課題について協議している。利用者の健康診断についての協議では、参加者の提案を受けて胸部レントゲン撮影を取り入れるようになった。会議録は事業所便りと一緒に、家族にも送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に出席いただきアドバイスをしてもらったり、またこちらの取り組みについて話しあってもいい。事故報告書等は迅速に報告している。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員が参加して、事業所の状況を理解してもらっており、介護保険制度改訂の内容や感染症予防対策について情報を得るなど、相談できる関係を築いている。今治市社会福祉協議会が開催する研修会へ参加したり、今治市グループホーム交流会に参加して交流を深めている。また、今治市地域包括支援センターからは空室状況の問い合わせがある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフ全員正しく理解し、ミーティングでは常に話し合いながら取り組んでいる。また玄関にはセンサー式のチャイムを設置し、日中は施錠せず見守りを行っている。	
			(外部評価) 身体拘束しないケアについては職員全員の共通理解になっており、今までも行っていない。問題があれば身体拘束廃止委員が中心になってミーティングで話し合い、職員にも徹底している。退院直後で転倒の危険がある利用者にはマットレスを敷いて低床にしたり、ひとりで外出する利用者にはチャイムや玄関先にいる事務職員の見守りで危険を防止している。言葉使いについても具体的に指導して、言葉による拘束を行わないよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修にも参加し、スタッフ一同何が虐待に当たるかを常に話し合い、理解している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 積極的に研修に参加し、学ぶ機会を作っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時に細かく丁寧に説明し、理解し納得してもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族とは常にコミュニケーションをとり、家族会等で意見や要望を伺っている。またケアプラン作成時や担当者会議の時も同様にしている。 家族会は3ヶ月毎に行っている。 (外部評価) 管理者は家族と良好な人間関係を構築することが大切であるという認識を持っており、年4回家族会を開催して意見や要望を聞くと共に、家族間の交流を図っている。入居時に利用者が新しい環境に慣れるまでは毎日面会に来てもらうよう依頼するなど、家族の協力を得るようにしている。職員は家族に利用者の良いことを多く伝え、安心してもらえるように配慮している。また、家族の要望にはすぐに応えるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回のミーティングやリーダー会で意見を聞いたり提案し合ったりしている。 (外部評価) 毎月行われるミーティングには、2か月に1回は必ず出席する取り決めをし活発な意見交換を行っている。会議では、利用者全員のカンファレンスやヒヤリハット報告を行って事故防止に取り組んでいる。職員は話しやすい雰囲気があると感じており、職員一人ひとりの持ち味を発揮できる環境である。法人では人材育成に力を入れており、月10回程度の研修を行っている。資格取得を目指す職員も多く、資格に応じた待遇を設定して応援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 各職員の状況に応じて勤務時間や日数が考慮されている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内外共、研修を受ける機会と設けてくれているので、みんなのスキルアップにつながっていると思う。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設の催し物に参加させてもらったり、意見交換会にも参加させてもらっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) センター方式を取り入れたり家族に話を聞く等して生活暦を知る事で、本人を理解し信頼関係を築く様努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に十分な聞き取りを行い、また入所後も要望等 があれば聞き入れる様努力を怠らず良好な関係が保て るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 利用者の不安や家族の心配事を把握し対応していく様 努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者に対して敬意を持って接し、共に過ごしていけ る関係作りを心掛け、一方的な立場でなく共に支え合 いながら過ごしていける環境作りを目指している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の協力・支援がなくては認知症ケアは成り立た ない事を理解して頂き、絆を深めていく様努めてい る。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 今までに築き上げた生活を大切にして頂く為に、ご家 族にも協力して頂き、墓参り・ドライブ・買い物や馴染 みの美容院の利用等を継続してもらい、また親戚の 面会も歓迎している。 (外部評価) サービス利用開始時に生活歴を家族に書いてもらい、 馴染みの人や場所についての情報を得ている。家族や 知人の面会も多く、職員は気持ち良く面会に来てもら えるよう配慮している。家族会には孫やひ孫の参加も あり、墓参りや外食に家族が付き添って外出すること もある。また、行事を通して1階のデイサービス利用 者との交流があり、近所の人々の参加もあって知人と 出会う機会になっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い利用者同士の席順や、皆がそろって食事・レクリエーションに参加出来る様支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設に移られた利用者を面会に行ったり、また退所された利用者さんがデイサービスの帰りに立ち寄られたときにも歓迎している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者1人ひとりの要望や意見に耳を傾け、受け入れていける様努力している。	
			(外部評価) 職員は利用者の希望や意向を大切にしたいと考えており、利用者ごとの担当を決めて日常生活の中で聴き取るよう努めている。入浴介助や夜勤の時など、時間を見つけてゆっくりと話を聴くようにしたり、居室を訪れて二人きりで話を聞く等して、意向の把握に努めている。また、希望を把握した場合は、職員と家族が協力してそれを実現するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を利用したり、ご家族からも情報を頂いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録に1人ひとりの記録を作りモニタリングをし、スタッフ同士情報を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプランをカード化し、生活記録記入時にはいつも目を通し、スタッフ全員で共有している。また毎月のミーティングでもカンファレンスを行い状況把握に努めている。 (外部評価) 計画担当者が立案した初回介護計画に沿って、担当者が毎月モニタリングを行い、ミーティングで話し合っ て介護計画に反映させている。状態の変化がある時はその都度、ない場合は6か月に1回家族を交えてサービス担当者会議を開催し、話し合っ て介護計画を完成させている。初回以降の介護計画は、全職員が担当ごとに作成しており、実行可能な具体的な目標を立てることを大切にしている。ケア目標を記載したカードを作成して日々計画を意識しながらケアを行い、実施状況をチェックするようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人の言ったことをそのまま生活記録に記入。またケアの実践やその結果等も記入して情報を共有し、次回のケアプラン作成時に活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ショートステイを利用される方や、リハビリを利用している利用者さんもある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 今治南高生の園芸セラピーで学生さんと一緒に野菜の種まきや収穫を楽しんでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は母体の山内病院なので連携は十分に取 れている。	
			(外部評価) 協力医院をかかりつけ医とする利用者が多く、定期的 に職員が付き添って通院している。通院が困難な場合 は往診を依頼することもでき、24時間医療体制が 整っているため安心して利用することができている。 専門科外来受診は家族に付き添いを依頼しているが、 困難な場合は職員が付き添うようにしている。緊急を 要する場合は、法人の病院に入院して治療を受けるこ とができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調の変化はすぐに報告・相談し、必要があれば医師 に連絡しているので適切な受診が受けられる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院との関係作りは出来ている。 利用者が山内病院以外に入院した時は、スタッフが頻 繁にお見舞いに行き関係作りを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご家族に意向を伺い、病院の医師や看護師とも連絡を とり合いながら、スタッフもミーティング等で情報を 共有し、看取りにも取り組んでいる。	
			(外部評価) 看取り指針を作成し、本人や家族の要望に沿って看取 りを行う方針である。入居時に終末期について本人と 家族の意向を確認し、重度化した場合はその都度、家 族と医師、職員が話し合っ方針を検討している。今 までに10名の利用者の看取りを行った経験があり、 家族と協力して最期を看取っている。事業所の看護師 と協力病院の看護師が連携して医療対応を行い、職員 は年数回看取り研修を行って研鑽に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全職員がAEDの対応の仕方の講習を受けている。 感染症（ノロ・インフルエンザ）はマニュアルを作成し、また研修に参加し定期的に訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、防災避難訓練を受けている。 また地域の方々にも協力をお願いしている。 (外部評価) 年2回消防署立ち会いのもと避難訓練を行うほか、独自に1回訓練を行っている。夜間を想定し、防火扉まで避難できることを目標にしている。暗闇の中でランプを使用して作業点検を行ったり、手作り担架を使用した訓練も実施した。エレベーターは非常時担架が入る構造になっている。年1回は全職員参加での訓練を実施し、手順を体験するようにしている。地域に貢献したいという意向があり、地震発生時の避難受け入れを表明している。備蓄品は各階に保管しており、非常食の試食会も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 全職員が心掛け、尊重の気持ちを持ちプライバシーについてもその人の人格を傷つけない様心配りをしている。 「ありがとう」の声掛けをして感謝の気持ちを伝えて (外部評価) 管理者は感謝の気持ちがあれば利用者の尊厳を守ることにつながると考えており、利用者に対して折に触れ「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えるよう指導している。食器の片付けを行う際も、職員から自然に「ありがとう」の言葉が出ていた。また、トイレ誘導を行う際はそっと声かけをするよう気をつけたり、脱衣場にカーテンを設置して羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者に寄り添い信頼関係を築いた上で、その人の思いや希望を聞き、ケアに活かすよう努めている。選べる工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員側のペースで日々を送りがちだが、利用者さん本位の暮らし方が出来る様努力している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 専属の美容師が2ヶ月に1度来所し、カットしている。自身でコーディネート出来ない利用者は職員が選び、清潔が保てるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節を感じる献立を考え、利用者には下ごしらえや食器拭きを手伝ってもらっている。皆さん食事を楽しみにされ「おいしい」と言って喜んでくださる。誕生日の多い月は外食をしている。 (外部評価) ユニット毎に献立を考え、法人の管理栄養士に定期的に確認をしてもらっている。職員も一緒に食卓を囲み、食後は利用者と一緒に食器の片付けを行っている。食材は週2回利用者と一緒に買い物に行くが、畑で収穫した野菜を使うなど旬の食材にこだわりを持っている。正月や地方祭、クリスマスでは行事食を用意してみんなで楽しんでいる。また、誕生日は好みの料理を作って祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士さんにチェックしてもらい、アドバイスを受けている。水分量が少ない利用者さんは、量をチェックし好みの飲み物を提供し確保出来る様に努力している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを支援している。義歯の利用者には毎晩ポリデント洗浄をする様支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者ごとに排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。また紙オムツや紙パンツを外す様支援している。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握してトイレ誘導し、日中はできるだけトイレで排泄ができるよう支援している。夜間も鈴を鳴らしてもらってポータブルトイレで排泄ができるよう支援している。以前紙パンツを使用していた利用者に褥瘡ができ、意識してトイレに誘導することで改善することができた経験があり、なるべく安心パンツで過ごせるよう支援している。また、毎朝手作りのヨーグルトを出して便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎朝ヨーグルトを提供したり、毎日レクの時間に軽い運動を行っている。便秘気味の利用者にはオリゴ糖入りの飲み物や繊維質の多い食事を提供し、1人ひとりの状態に合わせている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 2～3日に1度の割合で入浴支援している。 拒否する利用者さんには足湯や入浴剤の使用、またご家族にも協力してもらい対応している。	
			(外部評価) 週2～3回の入浴を基本とし、家庭用浴槽でなるべく湯に浸かってもらうようにしている。利用者の身体状況に合わせて福祉用具を活用し、安全に入浴ができるよう支援している。体調によって3日入浴できない時は、清拭や陰部洗浄を行って清潔を保てるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、日を変えて声かけをするなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 眠れないと訴えて来た利用者さんにホットミルクを提供したり、話を傾聴し、安心して眠りにつける様支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフ全員が1人ひとりの薬を把握している。また変更や追加があれば、申し送りを徹底し理解し共有している。 排便については排便状況を把握し、服薬調整を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 針仕事やぬり絵等その人が得意とするものを実施出来る様支援している。また1人ひとりに合った役割を持って頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調をみながら外気浴や散歩等を行っている。また外食やドライブにも出掛け好評を得ている。ご家族にもお墓参り等の外出支援をお願いしている。	
			(外部評価) 季節感を味わえるよう、四季折々の行事に出かけている。初詣、大学祭、おんまく祭や梅、桜、藤などの季節の花見になるべく全員で出かけられるよう努めている。遠出ができない時は事業所の敷地内を散歩したり外気浴を行っている。また、年に数回国際ホテルでの外食は、利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族と買い物を楽しまれたり、近所のコンビニへスタッフと一緒に出掛けたりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎年年賀状を書いてもらっている。 電話したいという利用者さんには支援し、手紙を書くこともある。 利用者さんの中には、携帯電話を持っている人もいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) トイレや風呂には大きな字でわかりやすく表示したり、のれんをかけて雰囲気作りをしたりしている。また共有スペースは空調設備が整い大型テレビも設置している。	
			(外部評価) 共用スペースにはオープンキッチンと椅子席、ソファ席、畳コーナーがあり憩いの場となっており、利用者は思い思いの場所で寛ぐことができる。壁には職員と共同で作成したクリスマスリース等の飾りつけがされ、クリスマスムードに包まれている。また、行事写真を指差しながら、写真に写っている自分を捜している利用者の姿があった。駐車場の一角に畑があり、高校園芸クラブ生が毎週訪れて野菜の栽培をしており、利用者の楽しみになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下にソファを設置し、思い思いに過ごせるスペースを確保している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者さんの馴染みの家具を設置したり家族の写真を飾ったりして居心地良く過ごせる様にしている。	
			(外部評価) 居室にはベッドと整理だんすが備え付けられており、広々として車いすでも自由に移動ができる。窓も大きく、窓越しに街並みや田園風景を眺めることができる。入居時に家族へ馴染みの品物を持ってきてほしいと伝えており、家族写真や鏡、テレビ、椅子等を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。好みのぬいぐるみや手作り作品を飾り、個性的な部屋にしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下には手すりをつけていて、安全に歩行出来る様支援している。またトイレや風呂場も色でわかる様にしている。建物の構造は簡単でわかりやすい。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200783
法人名	医療法人平成会
事業所名	ほっとやまうち
所在地	今治市常盤町8丁目4-31
自己評価作成日	平成27年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.jp/houkoku/38/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 12月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

研修で学んだことや運営推進会議・介護実地指導・外部評価等で得た情報は、職員間で共有し、良いと思われることは取り入れ実践している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13年目を迎える事業所は、開設当初から大切にしてきた地域交流の努力が実を結び、町内会行事への参加や多様なボランティアの来訪、中学、高校、短大生との交流が定着している。近くの高校生は敷地内にある菜園の管理を引き受け、利用者は収穫して食材にしたり、運営推進会議には地域住民の他、高校教員と短大教授が参加して充実した内容で会議が行われサービスの向上に活かされている。管理者は家族との関係を大切に考えており、年4回家族会を開催して交流の機会を設けたり、サービス担当者会議に出席してもらって話し合いを行う等して良好な関係を持つことで、協働して利用者のケアにあたる姿勢を貫いている。また、家族の要望に応じて看取りケアにも取り組み、昨年は3名の利用者の看取りを行っている。事業所は人材の育成に力を入れており、毎月10回程度の研修の機会がある。職員はキャリアアップを目指し、意欲的にサービスの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

ほっとやまうち

(ユニット名)

4F

記入者(管理者)

氏 名

玉井 理恵

評価完了日

平成27年11月15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「ほっと安らぎ笑顔で自分らしく」をスタッフルームや生活記録用紙と、常に目につく所に明示されていてスタッフ間で意識して取り組んでいる。 (外部評価) 事業所では、開設当初に職員で話し合って決めた「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」という理念を大切に継承している。言葉通りに利用者と職員が支え合いながら生活し、「ほっとできる家」を目指している。職員は理念をユニット入口やスタッフルームに掲示して共有し、ケアに行き詰った時は立ちもどって考えるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に参加し、神社の清掃などに参加している。地方祭や地域行事に参加し、子供神輿や亥の子さんなど地域に溶け込んでいる。 中学生・高校生・短大生の実習を受入れ、日常的に交流している。 (外部評価) 地域に貢献する事業所を目指して、地域交流に積極的に取り組んでいる。町内会や老人会の総会に参加して地域の人々と顔馴染みになったり、校区の防災訓練に参加して緊急時の協力関係を築いている。また、敷地内にある畑を高校園芸クラブの生徒が耕して作物を収穫したり、近くの短大生の実習を受け入れ、大学祭にも参加している。書道や生け花のボランティアが定期的に訪れて利用者と交流したり、オーケストラを近所の人々と共に楽しむ行事もある。「ほっとでHOTOな夏祭り」には多くの人々の参加があり、盛大に開催されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ジョブウィークや短大の介護職員初任者研修の実習に協力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催している。 メンバーの方々の意見・情報交換を行いサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、家族や自治会長、高齢クラブ会長、民生委員、消防団、商店主、高校教師、短大教師、市職員、他事業所職員等多様な人々の参加を得て2か月に1回開催している。会議では、利用者状況報告やスライドを使った活動報告、ヒヤリハット事故報告を行うほか、取り組むべき課題について協議している。利用者の健康診断についての協議では、参加者の提案を受けて胸部レントゲン撮影を取り入れるようになった。会議録は事業所便りと一緒に、家族にも送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 積極的に相談しアドバイスを頂いている。 社会資源のアドバイスを頂いている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員が参加して、事業所の状況を理解してもらっており、介護保険制度改訂の内容や感染症予防対策について情報を得るなど、相談できる関係を築いている。今治市社会福祉協議会が開催する研修会へ参加したり、今治市グループホーム交流会に参加して交流を深めている。また、今治市地域包括支援センターからは空室状況の問い合わせがある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の研修会に職員が参加。研修テキストを職員は読んでいる。 玄関は日中は施錠していない。	
			(外部評価) 身体拘束しないケアについては職員全員の共通理解になっており、今までも行っていない。問題があれば身体拘束廃止委員会を中心になってミーティングで話し合い、職員にも徹底している。退院直後で転倒の危険がある利用者にはマットレスを敷いて低床にしたり、ひとり外出する利用者にはチャイムや玄関先にいる事務職員の見守りで危険を防止している。言葉使いについても具体的に指導して、言葉による拘束を行わないよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルがある。 研修会に順次参加。参加出来なかった者は、研修報告や研修資料で勉強している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加して勉強している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約は管理者が説明。 改定の際は、文章で説明。スタッフも説明出来るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議で意見を聞いている。 家族からの意見や要望は、面会・家族会・担当者会議の際の会話で伺っている。 (外部評価) 管理者は家族と良好な人間関係を構築することが大切であるという認識を持っており、年4回家族会を開催して意見や要望を聞くと共に、家族間の交流を図っている。入居時に利用者が新しい環境に慣れるまでは毎日面会に来てもらうよう依頼するなど、家族の協力を得るようにしている。職員は家族に利用者の良いことを多く伝え、安心してもらえるように配慮している。また、家族の要望にはすぐに応えるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月リーダー会・各階ミーティングを行い、意見交換している。 (外部評価) 毎月行われるミーティングには、2か月に1回は必ず出席する取り決めをし活発な意見交換を行っている。会議では、利用者全員のカンファレンスやヒヤリハット報告を行って事故防止に取り組んでいる。職員は話しやすい雰囲気があると感じており、職員一人ひとりの持ち味を発揮できる環境である。法人では人材育成に力を入れており、月10回程度の研修を行っている。資格取得を目指す職員も多く、資格に応じた待遇を設定して応援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得を推奨され、バックアップがある。人員も増え、有給休暇が取れ易くなった。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を受ける機会を提供され、力量に応じて認知症介護実践者研修を受講できる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会や今治グループホーム交流会に参加し、勉強会や相互訪問など交流し、サービス向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) センター方式を利用し、入所前の生活暦を参考に家族の協力を得ながら信頼関係に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 申込時に家族から聞いた事を共有し、面会時により詳しく聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ほとんどの人が、ほっとの生活に慣れてくれることを望んでいる。 また、必ず本人に入居の意思確認をしている。 利用者によっては、ショートステイの利用から始める等工夫している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来ることと出来ないことを見極め、出来ないことをさりげなく支援し「ありがとう」などの感謝の言葉掛けをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に利用者の日頃の様子を細かく報告し、問題があれば相談しながら共に利用者を支えあえる関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 月1回家族と一緒になじみの美容室へ行き、帰りは職員が迎えに行っている。 家族同伴で外食や墓参りに出かけたり、馴染みの物を居室に置いたりして、人や場所の関係が途切れない様工夫している。 (外部評価) サービス利用開始時に生活歴を家族に書いてもらい、馴染みの人や場所についての情報を得ている。家族や知人の面会も多く、職員は気持ち良く面会に来てもらえるよう配慮している。家族会には孫やひ孫の参加もあり、墓参りや外食に家族が付き添って外出することもある。また、行事を通して1階のデイサービス利用者との交流があり、近所の人々の参加もあって知人と出会う機会になっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 孤立しないように職員が利用者の橋渡しになり、コミュニケーションに回ったりして関係作りの支援をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設に移られた方の所に面会に伺っている。 家族の方とお会いした時声を掛け様子を伺っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式やご家族からの情報を参考にしている。 本人の活動等から意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 職員は利用者の希望や意向を大切にしたいと考えており、利用者ごとの担当者を決めて日常生活の中で聴き取るよう努めている。入浴介助や夜勤の時など、時間を見つけてゆっくりと話を聴くようにしたり、居室を訪れて二人きりで話を聞く等して、意向の把握に努めている。また、希望を把握した場合は、職員と家族が協力してそれを実現するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を利用し、家族会や面会時に情報収集しケアプランに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録・支援経過表に記入。 申し送りで職員で共有・把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 1人ひとりの目標をカード化し、生活記録時に番号で記録している。6ヶ月に1回ケアプランをカンファレンスし見直し、家族の希望や本人の状態に合った計画を担当者が作成している。 またミーティングでのケアカンファレンスにおいて、意見を出し合いケアプランに反映している。 (外部評価) 計画担当者が立案した初回介護計画に沿って、担当者が毎月モニタリングを行い、ミーティングで話し合っ て介護計画に反映させている。状態の変化がある時はその都度、ない場合は6か月に1回家族を交えてサービス担当者会議を開催し、話し合っ て介護計画を完成させている。初回以降の介護計画は、全職員が担当ごとに作成しており、実行可能な具体的な目標を立てることを大切にしている。ケア目標を記載したカードを作成して日々計画を意識しながらケアを行い、実施状況をチェックするようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 発した言葉・気づきを記録に残し、職員間で情報を共有している。 実践や計画の見直しに努めている。 ミーティングで職員間での情報共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 在宅復帰や有料老人ホームへの入所、中学生や高校生の認知症介護研修、入所申込時の介護相談等、多機能性を活かしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 高校の園芸クリエイト科の学生と一緒に園芸セラピーを行っている。 ボランティアの受入れやたのもさん等の地域行事の参加、地区の神輿や亥の子さんが来てくれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体の病院と連携をとっている。状態によっては師長 に報告。医療面の指示を仰いでいる。	
			(外部評価) 協力医院をかかりつけ医とする利用者が多く、定期的 に職員が付き添って通院している。通院が困難な場合 は往診を依頼することもでき、24時間医療体制が 整っているため安心して利用することができている。 専門科外来受診は家族に付き添いを依頼しているが、 困難な場合は職員が付き添うようにしている。緊急を 要する場合は、法人の病院に入院して治療を受けるこ とができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師、母体病院の看護師・師長に相談している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院と連携を常にとっている。 介護サマリーを作成し、入院医療機関に提供してい る。退院時には医療機関と情報交換している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合、終末期について家族と話し合いを 持っている。 看取り時は病院・多職種と話し合い支援している。	
			(外部評価) 看取り指針を作成し、本人や家族の要望に沿って看取 りを行う方針である。入居時に終末期について本人と 家族の意向を確認し、重度化した場合はその都度、家 族と医師、職員が話し合って方針を検討している。今 までに10名の利用者の看取りを行った経験があり、 家族と協力して最期を看取っている。事業所の看護師 と協力病院の看護師が連携して医療対応を行い、職員 は年数回看取り研修を行って研鑽に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AEDの講習に参加している。 事故発生時や感染症（ノロ・インフルエンザ）発生時のマニュアルを作成し、定期的に研修し対応の訓練をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回避難訓練を実施。 災害時個人票を作成し、非常時に持ち出せるようにファイルしている。 (外部評価) 年2回消防署立ち会いのもと避難訓練を行うほか、独自に1回訓練を行っている。夜間を想定し、防火扉まで避難できることを目標にしている。暗闇の中でランプを使用して作業点検を行ったり、手作り担架を使用した訓練も実施した。エレベーターは非常時担架が入る構造になっている。年1回は全職員参加での訓練を実施し、手順を体験するようにしている。地域に貢献したいという意向があり、地震発生時の避難受け入れを表明している。備蓄品は各階に保管しており、非常食の試食会も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ誘導はさりげなく声掛け。 尊重し「ありがとう」の言葉を掛けている。 1人ひとりの生活暦や職業等を踏まえ、言葉掛け等注意して行っている。 (外部評価) 管理者は感謝の気持ちがあれば利用者の尊厳を守ることにつながると考えており、利用者に対して折に触れ「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えるよう指導している。食器の片付けを行う際も、職員から自然に「ありがとう」の言葉が出ていた。また、トイレ誘導を行う際はそっと声かけをするよう気をつけたり、脱衣場にカーテンを設置して羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 南高の菊花展や日高地区のたのもさん作り等、季節を感じられるような取り組みをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者さんの体調やその日の気分に合わせて無理のないケアをしている。 入浴支援や外出支援は職員の体制が大きなウエイトを占めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に美容師に来てもらい、カットしている。 清潔な身だしなみを支援している。 また外出時には、着衣のアドバイスや選択を支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の食材を使った献立を心掛けている。下膳・食器拭きを出来る方に手伝ってもらっている。 手伝ってもらったら必ず感謝の言葉掛けをしている。	
			(外部評価) ユニット毎に献立を考え、法人の管理栄養士に定期的に確認をしてもらっている。職員も一緒に食卓を囲み、食後は利用者と一緒に食器の片付けを行っている。食材は週2回利用者と一緒に買い物に行くが、畑で収穫した野菜を使うなど旬の食材にこだわりを持っている。正月や地方祭、クリスマスでは行事食を用意してみんなで楽しんでいる。また、誕生日は好みの料理を作って祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立を栄養士さんに見てもらい、アドバイスしてもらっている。 状態によっては栄養補助食品を利用している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアしている。 入れ歯の人は夕食後ポリデントに浸している。 歯科受診はかかりつけ歯科医の往診をお願いしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握してトイレ誘導し、日中はできるだけトイレで排泄ができるよう支援している。夜間も鈴を鳴らしてもらってポータブルトイレで排泄ができるよう支援している。以前紙パンツを使用していた利用者に褥瘡ができ、意識してトイレに誘導することで改善することができた経験があり、なるべく安心パンツで過ごせるよう支援している。また、毎朝手作りのヨーグルトを出して便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日ラジオ体操・ストレッチを行っている。朝食後、献立に毎日オリゴ糖入りヨーグルトを取り入れている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴回数は1人ひとりの状態・希望にそえるようにしている。	
			(外部評価) 週2～3回の入浴を基本とし、家庭用浴槽でなるべく湯に浸かってもらうようにしている。利用者の身体状況に合わせて福祉用具を活用し、安全に入浴ができるよう支援している。体調によって3日入浴できない時は、清拭や陰部洗浄を行って清潔を保てるよう支援している。入浴が苦手な利用者には、日を変えて声かけをするなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 温かい飲み物を飲みながら話を傾聴。エアコン等で心地良い眠りを支援。状態によっては医師に相談している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1人ひとりの薬の把握に努めている。 変更時・追加時には連絡ノートに記入し、職員で情報共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 1人ひとりの状態・生活歴を意識して役割を提供している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 誕生会を兼ねて外食に年3～4回行っている。 花見・ドライブの支援をしている。	
			(外部評価) 季節感を味わえるよう、四季折々の行事に出かけている。初詣、大学祭、おんまく祭や梅、桜、藤などの季節の花見になるべく全員で出かけられるよう努めている。遠出ができない時は事業所の敷地内を散歩したり外気浴を行っている。また、年に数回国際ホテルでの外食は、利用者の楽しみになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望に応じて近所のコンビニやドラッグストアでの買い物支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状を家族に出すよう支援している。 贈り物が届いた時は、自ら電話出来るよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用空間には、エアコン・空気清浄機・床暖房・大型テレビの設備をしている。 壁に季節ごとの飾りつけをしている。	
			(外部評価) 共用スペースにはオープンキッチンと椅子席、ソファ席、畳コーナーがあり憩いの場となっており、利用者は思い思いの場所で寛ぐことができる。壁には職員と共同で作成したクリスマスリース等の飾りつけがされ、クリスマスムードに包まれている。また、行事写真を指差しながら、写真に写っている自分を捜している利用者の姿があった。駐車場の一角に畑があり、高校園芸クラブ生が毎週訪れて野菜の栽培をしており、利用者の楽しみになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下に置いているソファに座り、気の合った同士で談笑出来る様にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 面会に来られた時の家族写真を飾ったり、自宅で使っていた物を持ち込んでいる方も多い。	
			(外部評価) 居室にはベッドと整理だんすが備え付けられており、広々として車いすでも自由に移動ができる。窓も大きく、窓越しに街並みや田園風景を眺めることができる。入居時に家族へ馴染みの品物を持ってきてほしいと伝えており、家族写真や鏡、テレビ、椅子等を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。好みのぬいぐるみや手作り作品を飾り、個性的な部屋にしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 巾広い廊下があり、台所から各居室の出入りが把握でき、トイレの位置はわかりやすく避難等も容易である。	